



No. 9

公益財団法人東洋哲学研究所
NEWSLETTER

目次

研究所紹介-----	1
公式ホームページリニューアル-----	2
公式インスタグラム開設-----	3
第 36 回学術大会-----	4-5
「法華経——平和と共生のメッセージ」展-----	6-9
連続公開講演会-----	10-11
研究部員会／部門・プロジェクト活動 -----	12-13
ニュース-----	14
「法華経写本シリーズ」-----	15
出版物-----	16-17
定期刊行物 -----	18-20

「IOP NEWSLETTER」No.9 では、公益財団法人東洋哲学研究所が 2022 年 4 月から 2023 年 3 月に推進してきた研究活動のトピックスを紹介します。

※所属、肩書、講演会タイトル等は当時のものです

研究所紹介

創 立 者：池田 大作 創価学会インタナショナル（SGI）会長
代表理事・所長：桐ヶ谷 章

【沿 革】

1962 年（昭和 37 年） 1 月 27 日 開所

1965 年（昭和 40 年）12 月 3 日 財団法人設立

2010 年（平成 22 年）11 月 18 日 公益財団法人認定

【設立趣旨】

東洋思想、なかんずく仏教のすぐれた思想・哲学を研究するとともに、各学問分野との学際的研究を推進し、その成果をもって、人類が抱える諸課題の克服に貢献する。

【所 在 地】

住所：〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

T E L：042-691-6591 / FAX：042-691-6588

開館：月曜日から金曜日（午前 10 時～午後 5 時）

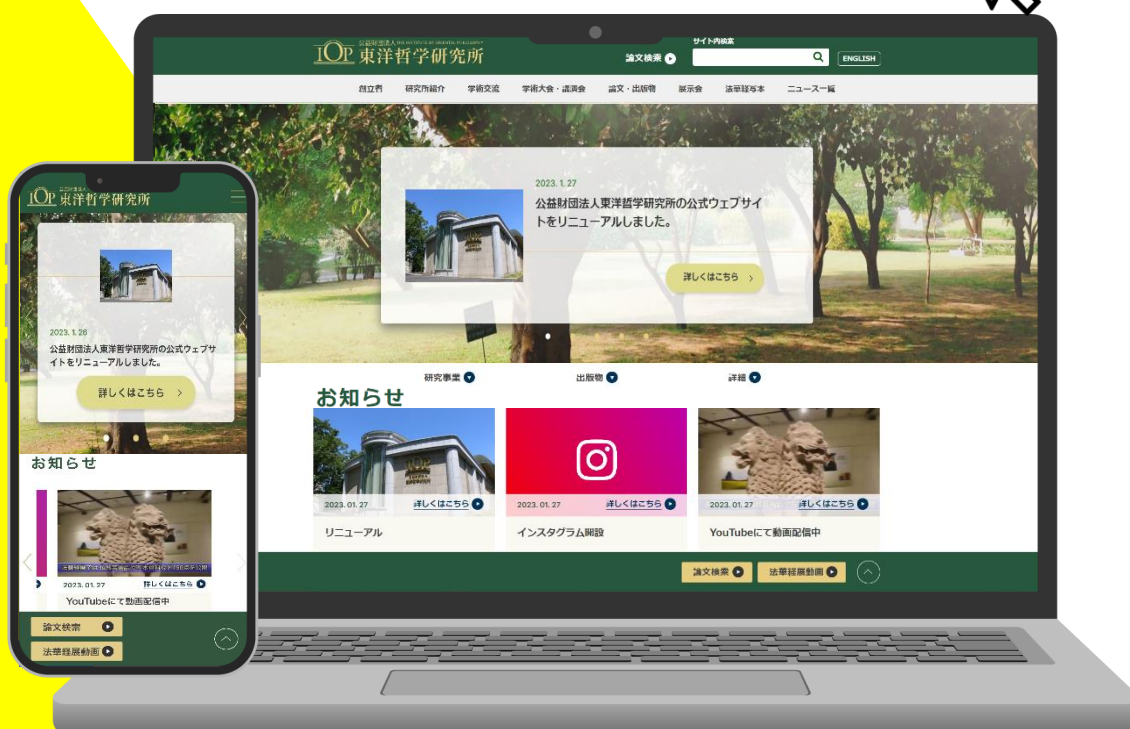


公式ホームページ リニューアル



東洋哲学研究所

検索



Check 1

最新記事をトップページに掲載

Check 2

ジャンル別など論文検索が充実

Check 3

新刊書籍の情報がより見やすく

2月4日「東洋哲学研究所の日」を記念してホームページのリニューアルをし、デザインや構成を全面的に刷新。研究事業や出版事業の活動について、①最新記事をトップページに②論文検索が充実③より見やすい新刊書籍、など欲しい情報にすぐにアクセスできる。

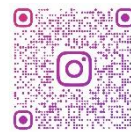
論文検索では、論文タイトルや執筆者名の一部、およびジャンル別などでも検索することができる。また、日本語サイトに合わせて英語サイトもリニューアルし、トップページ右上の「ENGLISH」のボタンで言語切り替えができ、英文のページの閲覧が可能になった。

東洋哲学研究所 公式



Instagram

@totetsu_iop_official



@TOTETSU_IOP_OFFICIAL

連続公開講演会の告知や参加者募集などをお知らせ！



新刊書籍や研究論文のアップロードなど、盛りだくさんの情報を発信中！

研究所のホームページのリニューアルに合わせて、公式「Instagram」（インスタグラム）も新たに開設された。「Instagram」は、写真や動画を共有するソーシャルネットワーキングサービスで、研究所の公式アカウントをフォローすれば、自分のアカウントにお知らせ（通知）され、その投稿に「いいね！」を残すことができる。

公式アカウントでは、東洋哲学研究所主催の講演会の開催告知・参加者募集や、新刊書籍の発行のお知らせ、「法華経——平和と共生のメッセージ」展や各種イベント開催のニュースを投稿し、研究所をより身近に感じられることを目的として発信を行っていく。

第 36 回学術大会

シンポジウムテーマ

「地球的危機の『挑戦』と宗教・文明の『応戦』

——パンデミックを契機として」



上段左から、中央大学教授で比較文明学会会長の保坂俊司氏、東京大学名誉教授の市川裕氏、石神豊特任研究員。下段左から、春日潤一委嘱研究員、桐ヶ谷章所長と司会の薦木栄一委嘱研究員

第 36 回学術大会が 5 月 28、29 日にオンラインで開催された。学術大会は、国内外の研究員・委嘱研究員が集い、法華経研究をはじめ、宗教間・文明間対話、平和と人権、環境問題などの課題克服の研究成果を発表する機会である。

1 日目（5 月 28 日）にはシンポジウム「地球的危機の『挑戦』と宗教・文明の『応戦』——パンデミックを契機として」を実施。コロナウイルスによる宗教観、死生観、経済観への「挑戦」によって生じた分断と不寛容と憎悪に対して、人類がいかにして「応戦」するかを論じるもので、2022 年に対談開始 50 周年となった創立者・池田大作 SGI 会長と文明史家 A・J・トインビー博士との対談集『二十一世紀への対話』を基盤として企画された。これには、市川裕氏（東京大学名誉教授）と保坂俊司氏（中央大学教授、比較文明学会会長）を招聘し、当研究所の石神豊特任研究員と春日潤一委嘱研究員とともに発表を行った。

●「『二十一世紀への対話』の歴史的文脈」（春日潤一委嘱研究員）

『二十一世紀への対話』では、多岐にわたるトピックが論じられている。特に東洋の宗教に熾烈な関心を寄せる両者が、各々の宗教観を展開している第 3 部は対談の中核部分であり、どのような時代状況を背景としていたのかという歴史的文脈に照らすことが必要である。1960 年代からの激動の時代のなかで、対談集をどのように理解するかをより深く探していきたい。

●「危機の時代の文明観——トインビー・池田対談のアクチュアリティ」（石神豊特任研究員）

危機の時代の現代に生きる今、1970 年代という時代にあって正面から問題の本質について対話を交わした『二十一世紀への対話』から学ぶことが重要である。当初のトインビー博士の仏教理解は、煩惱の断滅という小乗的な表現にこだわっていたように見えるが、SGI 会長との対話によって大乘仏教の立場を明瞭に確認し、

もともと描いていた「愛」「献身」という自己中心性の克服原理を自身の体系に位置づけたと思われる」と論究した。

●「危機を乗り越える思想の構築は可能か——インド思想を事例として比較文明学から考える」（保坂俊司 中央大学教授、比較文明学会会長）

トインビー・池田両氏が共有する「人類の地球的危機」に対して、その根本原因の究明とともに「文明を構成する人間の内発性を開花させゆく宗教の重要性」という視点を中心に考えることが重要である。パンデミックやウクライナ危機を契機に着目したのが「依正不二」である。この言葉は仏教用語として知られるが、対談において重奏低音のように共有されている。私はこれをインド思想的に「自他同置（自己と他者の立場を置き換える）」と表現する。そのうえで、現代版「ミリンダの問い」と言える対話をさらに検討したいと語った。

●「「第2の枢軸の時代」に向けて——人類の精神革命と自己抑制」（市川裕 東京大学名誉教授）

高度な精神文明を築いた人類が、西欧近代に発する非宗教な近代科学技術文明を成熟させる過程で繁栄と共に人類の生存の危機を招来した今、宗教の復権による精神革命が人間の無明を克服し人間を陶冶する役割を担うことに希望を見出したい。トインビー博士は対談で池田 SGI 会長に何を託したか。それをその後の対話でどのように具現化したか。SGI 会長はホフライツネル氏との対談で「第2の枢軸時代」への期待を語っているが、どうしたらこの時代を実現できるのかが切実な課題である。宗教、教

社会制度という観点から、現代を「第2の枢軸時代」とする方途を考えたいと述べた。

研究発表大会2日目（5月29日）

●The Tilting Stream of Dharma Metaphor in Mahāyāna Buddhist Exegesis

（ジェームズ・アップル 海外研究員）

●鳩摩羅什訳経論における音写と意訳

（前川健一 研究員）

●ロシア・ウクライナ紛争の淵源を考える 西欧・スラブ主義、ユーラシア主義（トゥルバツコイ、米重文樹）、スラヴォイ・ジジエク

（寒河江光徳 委嘱研究員）

●欲望の制御への挑戦

（大久保俊輝 委嘱研究員）

●分子から人間を科学する～アルツハイマー病研究からの一考察～

（道川誠 委嘱研究員）

●自殺現象に関する考察——コロナ禍における人間社会の変化において——

（山口力 委嘱研究員）

●「自己-社会-環境」この3つの範疇の関係の表記方法について——枢軸時代の儒教・ユダヤ教・仏教・ギリシャ精神を例として——

（光國光七郎 委嘱研究員）

●文化の相対性・普遍性をめぐるアーノルド・J・トインビーの歴史研究——『二十一世紀への対話』に見られる宗教概念の多様性に注目して——

（井上大介 委嘱研究員）

●Global Citizenship Education: Lessons from the Lotus Sutra and the Thoughts of Dr Daisaku Ikeda

（ボイ・チョンメイン 海外研究員）

「法華経

—平和と共生のメッセージ」展



「法華経—平和と共生のメッセージ」展（法華経展）は、東洋哲学研究所が企画・制作する展示会で、2006 年からスタートした。同展は、研究所が進める法華経研究の成果を広く公開するとともに、その教えの伝播の歴史と経典の内容を分かり易く紹介するものである。

ロシア科学アカデミー東洋古文書研究所、中国・敦煌研究院、インド文化国際アカデミーの全面的な協力により、法華経写本の画像および複製の公開や敦煌莫高窟の再現、仏教文物・各種資料の提供なども行われている。その出品物には、8 世紀書写とされるペトロフスキー法華経写本や1～2 世紀書写のガンダーラ語の法句経の複製が含まれる。また、敦煌莫高窟の壁画に描かれた飛天の模写絵や、敦煌文書の法華経（複製）をはじめ、経典書写の際に使用された鉄筆や白樺の樹皮の複製品など、展示全体で約 160 点に及ぶ文物が出展されている。

また、同展を解説した『ガイドブック法華経展—平和と共生のメッセージ』を編纂し、日本語、英語、韓国語、中国語（簡体字・繁体字）の4 言語で刊行している。

法華経展は、仏教発祥の地であるインド、ネパールをはじめ、マレーシア、韓国等のアジア、欧州のイギリス、スペイン、南米のブラジル、アルゼンチンなどで開催。国内では東京、兵庫、福岡、北海道の4 都市で行われ、世界 17 カ国・地域で 90 万人以上が鑑賞に訪れている。

さらに、法華経展での成果を仏教全体に広げた「仏教経典：世界の精神遺産」展をフランスで開催。パリ、レンヌ、マルセイユの3 都市で実施し、累計 1 万人が来場。同展のフランス語版ガイドブックも発刊している。



“目で見る法華經”に

17カ国地域・90万人の鑑賞者



インドネシア展（2019年）



スペイン・マドリッド展（2009年）



シンガポール展（2017年）



神戸展（2012年）



タイ展（2017年）

展示会の開催国と地域・実施年		
1	香港	2006年～2007年、2015年
2	マカオ	2007年
3	インド	2007年、2008年、2009年、2010年
4	スペイン	2009年、2012年
5	ネパール	2010年
6	ブラジル	2010年、2011年
7	スリランカ	2011年、2013年
8	イギリス	2011年
9	日本	2012年、2013年、2014年
10	台湾	2013年、2015年
11	マレーシア	2014年
12	アルゼンチン	2014年
13	韓国	2016年、2018年、2022年
14	ペルー	2016年
15	タイ	2017年
16	シンガポール	2017年
17	インドネシア	2019年



ブラジル・サンパウロ展（2011年）



マレーシア・クアラルンプール展（2014年）



台湾・桃園展（2015年）



「法華経——平和と共生のメッセージ」展

韓国・大邱（テグ）での「法華経——平和と共生のメッセージ」展（法華経展）の開幕式が6月11日、大邱広域市・大邱広域寿城文化会館で行われた。大邱は同国南東部に位置し、人口約240万人を擁する。“第3の都市”と言われる主要都市であり、歴史・経済・文化の中心の一つである。大邱郊外には、高麗時代の1251年までに完成した『高麗大蔵経』を保管する世界遺産・海印寺大蔵経板殿がある。『高麗大蔵経』は、日本で刊行された『大正新脩大蔵経』の底本とされたもの。日韓両国において大邱地域は、仏教の交流史にあって重要な場所である。

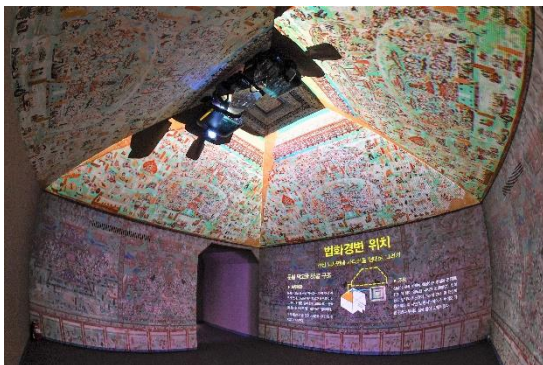
大邱での法華経展は、首都・ソウル、釜山に続き3都市目で、コロナ禍では初の開催。運営にあたっては感染対策などを充分に行い完全予約制での実施となった。東洋哲学研究所と中国・敦煌研究院、韓国・中央日報S、韓国SGIが共催し、展示数は約200点で過去最大規模の出品数となった。韓国の博物館の特別協力により、国宝1点（白紙墨書妙法蓮華経、湖林博物館所蔵）と日本の重要文化財に相当する宝物2点（紺紙銀泥妙法蓮華経、妙法蓮華経巻5-7、国立中央博物館所蔵）の複製を展示。また、敦煌研究院による資料・画像提供により、世界遺産である莫高窟の第85窟を再現。デジタル展示を駆使して、“目で見える法華経”“体験する法華経”を目指した展示会となっている。



来賓とともに盛大に開幕した法華経展

開幕式には、韓国災害救護協会の宋弼鎬会長をはじめ、李範憲・韓国芸術文化団体総連合会会長、金有祚・国際ペン韓国本部副理事長等の来賓、韓国 SGI の代表メンバーなど 160 人が出席。式典の様子はライブ中継され、約 3000 人が視聴した。

同展は会期中 9 万人が鑑賞に訪れ、各界の識者やマスコミなどでも、大きな反響を呼んだ。



プロジェクションマッピングで再現された第 85 窟



会場となった大邱広域寿城文化会館

記念講演会

大邱での法華経展の開催を記念する講演会が 9 月 28 日、同展の展示会場である大邱広域寿城文化会館で開催された。

ここでは、東洋哲学研究所の蔦木栄一委嘱研究員が「池田 SGI 会長と法華経展」をテーマに発表。続いて、韓国・日本の考古学を研究領域とする慶北大学の朴天秀教授が、「シルクロードと仏教」をテーマに講演した。

朴教授は、「シルクロードは人や物が往来する道でありました。文明の十字路口と言われたアフガニスタンなどは、そこを通らないとアジアやヨーロッパへ行き来することはできませんでした。しかし今は紛争地帯になってしまい、行くことができなくなっていました。本来シルクロードこそ平和や共生の象徴であるはず」と強調した。

そして、シルクロードの平和の実現の為に、池田大作 SGI 会長の思想と平和と共生のメッセージが込められた法華経展を開催する意味があると述べた。

- ◆企 画・制 作：東洋哲学研究所
- ◆主 催：東洋哲学研究所、中国・敦煌研究院、
韓国・中央日報S、韓国 SGI
- ◆後 援：インド文化国際アカデミー、ロシア科学
アカデミー東洋古文書研究所、大邱広域市他
- ◆会 場：大邱広域寿城文化会館
- ◆開催日：2022 年 6 月 11 日～9 月 30 日

連続公開講演会 統一テーマ

「地球的危機の『挑戦』と宗教・文明の『応戦』—— パンデミックを契機として」

- ◆講 師：井上 大介（委嘱研究員、創価大学教授）
- ◆開催日：2022 年 10 月 22 日
- ◆方 式：YouTube Live 限定配信
- ◆テ ー マ：疫病・紛争・飢饉に対する宗教の課題と役割
——『二十一世紀への対話』を題材として



『二十一世紀への対話』を通して見た現代の地球的危機を疫病・紛争・飢饉に絞り、それらを「感染症と宗教」「紛争・経済危機と宗教」という角度で整理し、西側から派生した国家・政治権力・差別の問題として分析。現代の 3 つの代替宗教（トインビーの説）であるナショナリズム・共産主義・科学至上主義に対して、世界宗教の使命・課題を論じた。

そして、創立者とトインビー博士が西欧中心主義的なものの見方に対し距離をとり、それらを相対化しつつよりよい価値を追求していたことに言及。歴史的に宗教文化が病気や死といった人間の根源的悲嘆を乗り越える原動力となり、集団における連帯や団結、道徳性や倫理観を維持、強化する影響を与え、他者との共存や利他主義を涵養してきたことに触れ、利他主義を培う宗教文化を世界的道義性・倫理観に昇華させ共有する重要性和、各宗教が共通目的のために協力する必要性を論じた。

- ◆講 師：鈴木 董（東京大学名誉教授）
- ◆開催日：2022 年 11 月 12 日
- ◆方 式：YouTube Live 限定配信
- ◆テ ー マ：人類の文明と文化再考



シュペンGLERが、文化が生物体のように生まれて成長して死滅していると述べて、西欧がその一つに過ぎないという世界史観における『コペルニクス的転換』を宣言したことに言及。これを画期的視点としつつ、そうしたなかで、トインビーが文明という概念を示し『歴史の研究』という比較文明論・比較文明史の先駆的大著を生み出したと述べた。

現代世界では、世界人口の 9 割が有文字文化であり、文字を持つか持たないかで情報の蓄積と伝達で大きな差が生じる。大きな文明の変遷は、文字から見るができる。そして、人類文明の未来への危惧と異文化間の対立・分断が問題とされている今、文明・文化は何かという原点に立ち返り、その歴史と結びつきから考える必要がある。そこに遡ってみるならば、人類はまだ未熟だが成長の可能性がある、こうした繋がりをより深く探究することで、未来への道筋が見えてくると語った。

コロナウイルスの感染拡大など未曾有の危機によって生じた分断と緊張によって、不寛容と憎悪、果てはウクライナ危機までもが勃発した。この「挑戦」に対して、人類がいかにして「応戦」していくか——東洋哲学研究所では、池田大作 SGI 会長と文明史家アーノルド・J・トインビー博士との対談開始 50 周年（2022 年）を契機として論じ合うことを企画した。オンライン講演会は国内外約 2500 人が視聴した。

- ◆講 師：子島 進（東洋大学教授）
- ◆開催日：2022 年 12 月 3 日
- ◆方 式：YouTube Live 限定配信
- ◆テ ー マ：イスラームとの対話から見る共生
——世界宗教の視座から



「世界宗教であるイスラームは、歴史上有数の都市文明を発展させてきました。宗教思想に基づいたまちづくりを積み重ねてきており、その経験は現在のコミュニティ形成においても活用されています。イスラームの礼拝所であるモスクの開設がその出発点と言えます。イスラームの『普遍性』に基づくコミュニティ作りが進むと、結果としてわれわれとかれらという境界が生まれます」と強調。

「しかし、そのことは、互いの交流の妨げにはなっていなかった。なぜならば、コミュニティ作りを進める一方で、ムスリムが日本社会に貢献することに心を砕いてきたからです」と語った。さらに、移民が増加する日本社会にあって、イスラームの内在的な論理を理解することの重要性に触れ、世界宗教・文明としてのイスラーム発展の基礎を知ること、異文化理解ではなく日本人が多様化しているという観点から理解することが必要であると述べた。

- ◆講 師：糸井川 修（愛知学院大学教授）
- ◆開催日：2022 年 12 月 10 日
- ◆方 式：YouTube Live 限定配信
- ◆テ ー マ：戦争のない世界に向けて
——ベルタ・フォン・ズットナーの文学と平和運動



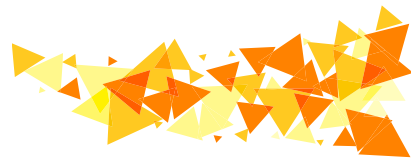
19 世紀末から 20 世紀初めに活躍したオーストリアの作家・平和運動家であるズットナーが、戦争の阻止に向けて自らの小説のタイトル『武器を捨てよ！』と叫び続けた事実と言及。人々が「平和のベルタ」と呼び始めたのは、「そこには、皮肉が込められていました。つまり『戦争が行われていない平和な時代に、平和を叫んでいる、ベルタ』というニュアンスです」と述べた。そして、ガルトウングが提起した概念を用いて、ズットナーの平和観は、戦争が行われていない状態を平和とする『消極的平和』ではなく、抑圧や搾取、人権侵害など紛争の原因にもなる『構造的暴力』をも無くそうとした『積極的平和』に近いものとした。

さらに、世界はズットナーの思想と行動の真意を、彼女が亡くなった後に勃発した第 1 次世界大戦を経て知ったと述べ、戦争の精神を糾弾する彼女の運動は、まさに「平和を望むならば、平和の準備をせよ」という、戦争の文化から平和の文化への転換を促すものだったと語った。

研究部員会／部門・プロジェクト活動

東洋哲学研究所では所属する研究員が研究成果を発表する場として、研究部員会と研究部門・プロジェクトごとの研究会を開催している。※2022年4月～2023年3月に開催された研究会は、全てオンラインによる実施

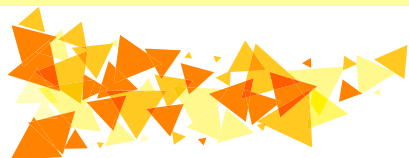
研究部員会



- 4月19日「現代宗教と宗教間対話の理路——宗教復興と公共宗教——」大西克明（研究員）
6月21日「心とつながり」平良直（研究員）
7月19日「インド仏教における『信』（saddhā/śraddhā）の系譜——梵天勸請説話から『法華経』『方便品』へ——」古川洋平（研究員）
9月20日「トマス・アキナスの聖体論とその批判」山崎達也（主任研究員）
10月18日「イスラームにおける福祉——コロナ危機への対応と障がい観——」岩木秀樹（研究員）
11月15日「『学天台宗法門大意』にみる湛然説の受容について」松森秀幸（研究員）
12月20日「『SGIの日』記念提言におけるジェンダー観」薦木文湖（委嘱研究員）

2023年

- 1月17日「治安維持法下における思想犯転向輔導施策への牧口常三郎の対応に関する研究——牧口常三郎の『赤化青年の完全転向は如何にして可能なるか』を読み解く——」
岩木勇作（委嘱研究員）
3月14日「取り消し不能なものと、そこに見いだされる光——赦しと罪障消滅の比較研究に向けて——」
平良直（研究員）



プロジェクト研究会

■第2部門「人類的課題と宗教」

第4プロジェクト 宗教間対話

2023年

- 2月14日「ブルガリアのヘシカスト エフティミ・タルノフスキによる『イワン・リルスキ年代記』」
二宮由美（研究員）

第5プロジェクト 文明論

- 11月29日「夏目漱石とゲーテ——『若きウェルテルの悩み』とオシアンの詩をめぐって」
岸・ツグラッゲン・エヴェリン（委嘱研究員）
「〈預言〉の比較宗教社会学」大西克明（研究員）

第6プロジェクト ジェンダー

9月24日「日蓮の女性観をめぐって」栗原淑江（主任研究員）

10月29日「池田・平和思想における詩心の力——女性の視点から」二宮由美（研究員）

2023年

2月25日「日蓮門下の供養の志と師弟の交流——南条家の事例」梶川貴子（研究員）

3月25日「『二十一世紀への対話』の視点からみた『文学と政治』、『文学と性』、『文学の使命』」

岸・ツグラッゲン・エヴェリン（委嘱研究員）

第7プロジェクト 生命倫理

2023年

3月11日「コロナ禍と若者のメンタルヘルス」根本正史（委嘱研究員）

第8プロジェクト 科学技術・環境問題

2023年

2月18日「『足るを知る』は人類の知恵——再生可能エネルギーよりエネルギーを使わない社会を」

吉村皓一（日本UNEP協会理事）

■第3部門「仏教の現代的展開」

第10プロジェクト 平和と人権

7月16日「幸福平和学の試み——有情と非情の幸せと平和・共存——」岩木秀樹（研究員）

2023年

3月11日「2022年ウクライナ侵攻をめぐるロシアの人権観と学校教育」佐藤裕子（委嘱研究員）

第11プロジェクト 教育論

2023年

3月25日「牧口『価値論』に於ける『聖』の価値」前川健一（研究員）

「創立者の中国大学講演における『中国的人間主義』の意味するところについて」

高橋強（委嘱研究員）

「『完本 若き日の読書』収録『読書ノート』について」伊藤貴雄（研究員）

「池田大作『読書ノート』の抜書から浮かび上がる読書本の内容

——田中菊雄『現代読書法』について——」岩木勇作（委嘱研究員）

文明論／「社会と宗教」レクチャー

東洋哲学研究所では、所外講師を招聘した各種のレクチャーを実施している。

文明論レクチャー（12月22日、オンライン）では、韓国と日本の考古学を研究する韓国・慶北大学の朴天秀教授が「シルクロードと東アジア」をテーマに講演。「社会と宗教」レクチャー（写真。2023年3月28日、創価大学）では、宗教間対話が専門のドイツ・ミュンヘン大学ミヒャエル・フォン・ブリュック名誉教授が「ルターと日蓮をめぐって」を行った。



海外研究員による研究報告会



2023年1月31日には、2・4「東洋哲学研究所の日」を記念する海外研究員によるオンライン研究報告会を実施した（写真）。ここでは、海外研究員と今後の研究活動についての報告と打ち合わせを行った。

海外からの来研者

東洋哲学研究所には2022年度に、海外5カ国の研究者が来研。創立者の理念や今後の交流などについて、有意義な意見交換を行っている。

7月25日 ドイツ マハバット・ケンジェガリエワ（ライプツィヒ大学教授）

9月14日 中国 催学森（大連外国語大学日本語学院教授、同大学池田大作研究所所長）

9月26日 韓国 趙誠倫（済州大学名誉教授）

12月22日 韓国 朴天秀（慶北大学教授）

2023年

1月13日 シンガポール チョイ・キンミン（シンガポール金融管理局部長）

1月27日 ロシア リュボフ・カレワ（ロシア科学アカデミー東洋哲学研究所上級研究員）

「法華經写本シリーズ」



東洋哲学研究所と創価学会は「法華經写本シリーズ」の刊行を推進してきた。これは、各国に保存されてきた貴重な法華經写本を、カラー写真で撮影した「写真版」と“読み”をローマ字化した「ローマ字版」を公刊したものの。世界の研究者に広く提供し、『法華經』を中心とした初期大乘仏教の研究への貢献を目的としている。1994年に出版委員会を発足。1997年から2019年まで全17タイトル

19点を発刊してきた（非売品）。また、シリーズ開始の契機の一つとして、創業者・池田SGI会長に対して、世界の研究機関から貴重な「法華經写本」の複製やマイクロフィルム等が寄せられたことがあげられる。

梵文法華經校訂本としては、これまで「ケルン・南條本」（1908—1912年）、「荻原・土田本」（1934—1935年）、「ダット本」（1953年）等があり、より正確で信頼に足る校訂本が望まれていたが、2019年に、ケンブリッジ大学所蔵の写本（C3 = Add. 1682）を底本として、梵文法華經写本ギルギット系とネパール系の異読等を注記した『ギルギット・ネパール系梵文法華經写本校訂本（C3校訂本）』を刊行した。

「法華經写本シリーズ」一覧

- 1 旅順博物館所蔵 梵文法華經断簡——写真版及びローマ字版
- 2-1 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——写真版
- 2-2 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——ローマ字版 1
- 2-3 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No.4-21）——ローマ字版 2
- 3 カーダリク出土 梵文法華經写本断簡
- 4 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本（Add.1682 および 1683）——写真版
- 5 東京大学総合図書館所蔵 梵文法華經写本（No.414）——ローマ字版
- 6 ロシア科学アカデミー・東洋学研究所サンクトペテルブルク支部所蔵 西夏文「妙法蓮華經」——写真版（鳩摩羅什訳対照）
- 7 英国・アイルランド王立アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.6）——ローマ字版
- 8 パリ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.2）——ローマ字版
- 9 大英図書館所蔵 梵文法華經写本（Or.2204）——写真版
- 10 ケンブリッジ大学図書館所蔵 梵文法華經写本（Add.1684）——ローマ字版
- 11 大英図書館所蔵 梵文法華經写本（Or.2204）——ローマ字版
- 12 インド国立公文書館所蔵 ギルギット法華經写本——写真版
- 13 ロシア科学アカデミー・東洋古文書研究所所蔵 梵文法華經写本（SI P/5 他）——写真版
- 14 コルカタ・アジア協会所蔵 梵文法華經写本（No.4079）——ローマ字版
- 15 ネパール国立公文書館所蔵 梵文法華經写本（No. 5-144）——ローマ字版
- 16 プリンストン大学図書館所蔵西夏文妙法蓮華經——写真版及びテキストの研究
- 17 ギルギット・ネパール系梵文法華經写本校訂本（C3校訂本）

出版物紹介

『仏教東漸の道 インド・中央アジア篇』

公益財団法人東洋哲学研究所編 2023年3月20日発行 定価：4,500円（税込）



シルクロード研究論集第1巻となる本書は、東洋の精神遺産である仏教がいにしえの人々によっていかに伝承、受容されてきたのかを考察し、仏教東漸の道を再考する内容を目指すべく刊行されたもの。「インド篇」「中央アジア篇」の2部で構成されている。

同書には、世界各国の研究者による写本研究、美術史、考古学、建築学、言語学の見地から、各地の宗教事情や諸民族の文化的背景を踏まえて考察した論文・コラムを収録。また仏教に限らず、中央アジアの諸宗教やソグドの壁画の主題に関する論考、半世紀にわたりシルクロードの遺跡を撮影し続けた写真家の論考など、そのテーマは多岐にわたっている。

『現代語訳 法華玄義釈籤（下）』

菅野博史・松森秀幸 訳注 2022年11月18日発行 定価：7,590円（税込）



『釈籤』とは、天台大師智顗（538—597）の講説を、弟子の章安大師灌頂（561—632）が整理して書物とした『法華玄義』全10巻（一巻を上下に分けるので、20巻と数えることもある）に対する妙楽大師湛然（711—782）の注釈書全20巻である。

東哲叢書「仏典現代語訳シリーズ」IVとなる第6回配本では、巻第十二から巻第十六を収録している。巻第十四には、観心の実践の要点を十種の不二門によって論じた「十不二門」を収め、「色心不二」「依正不二」についてのまとまった議論が展開されている。

『釈籤』の現代語訳は本邦初であり、本文に対する詳細な出典調査や語注を付すことも初めてとなる。

『日蓮の心』

公益財団法人東洋哲学研究所編 2022年11月18日発行 定価：1,500円（税込） 第三文明社刊

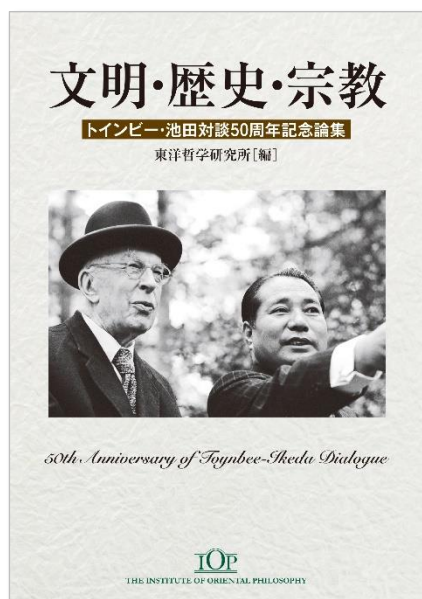


本書は、日蓮大聖人御生誕 800 年にあつて、東洋哲学研究所の第 3 研究プロジェクト「日蓮仏教の文献学的、思想的研究」が進めてきた研究の成果である。

地震、疫病、貧困、そして戦乱が起こる 800 年前の「危機の時代」。大聖人はどのように生き、苦悩する人々に希望を与えたのか——研究員は、大聖人の教義や思想だけでなく、その生涯や生きた時代を描くことにより、大聖人の人間的魅力に迫ることを目的として研究活動を進めてきた。そうした研究から、大聖人の「人生観」「国家観」「女性観」「門下との交流」「生命観」「平和論」などのほか、多様な視点からアプローチした 8 編の論考を収録している。

『文明・歴史・宗教』

公益財団法人東洋哲学研究所編 2022年3月16日発行 定価：1,980円（税込）

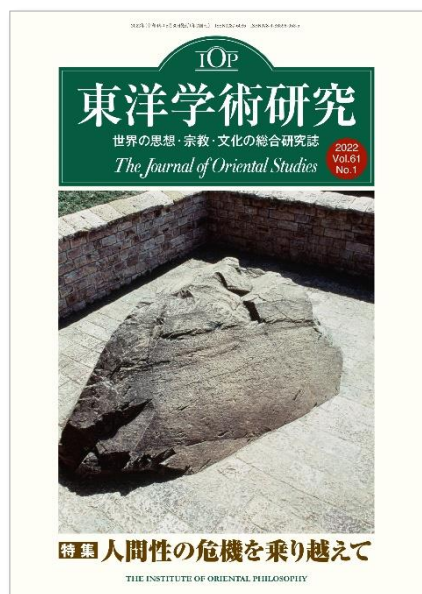


1972 年 5 月、ロンドン郊外で、創立者・池田大作 SGI 会長と歴史学者アーノルド・J・トインビー博士による対談が行われた。翌年と合わせて延べ 10 日間、40 時間に及ぶ対談では、「人生と社会」「政治と世界」「哲学と宗教」を柱に人間、自然、環境、学問、健康、福祉、宇宙、戦争、生命等々、多岐に亘るテーマで人類共通の諸問題について論じられ、対談集『二十一世紀への対話』として結実した。

半世紀を経た今、対談が発するメッセージを読み解き、トインビー史観、池田思想を学問的に研究すべく、東洋哲学研究所は第 5 プロジェクト「文明論」を立ち上げ、研究会を重ねてきた。そして 2022 年に、トインビー・池田対談 50 周年記念論集として、その研究成果をまとめたのが本書である。

定期刊行物

東洋学術研究 第 61 巻 第 1 号 (通巻 188 号) 定価: 1,400 円 (税込)



■特集 人間性の危機を乗り越えて (1)

コロナ禍によって経済格差の拡大、子供を取り巻く環境の悪化、自殺者の増加、家庭内暴力の悪化が浮き彫りになった。ここでは、「他者へのまなざし」を軸にした国内外の分野の専門家による論考を収録する。

■法華経展とその世界——思想と伝播の系譜から

2021 年、「法華経—平和と共生のメッセージ」展の開催 15 周年を記念してオンラインによる連続公開講演会を行った。本号では、同展の学術的価値や展示内容を踏まえたうえで、東アジアを中心に法華経が伝播した要因などについて発表した 4 人の研究者の講演録と論稿を掲載している。

主な内容

■【特集】人間性の危機を乗り越えて (1)

宗教とレジリエンス——コロナ禍におけるブータン中央僧団の役割

..... ソナム・キンガ (ブータン王立ガバナンス戦略研究所教員)

困難な時代の道筋を探る——政治的暴力のただ中での民間の戦略的行為

..... シェーン・バーター (アメリカ創価大学教授)、テツシ・オガタ (アメリカ創価大学客員講師)

子ども虐待にみる人間性の危機..... 藤原 武男 (委嘱研究員)

「他者へのまなざし」と未来の人間関係——自己複雑性・集団複雑性とネット社会——戸田 有一 (委嘱研究員)

社会脳神経系とヒトの自殺についての一考察——新しい自律神経理論ポリヴェーガル理論に焦点を当てて——

..... 山口 力 (委嘱研究員)

■法華経展とその世界——思想と伝播の系譜から (連続公開講演会より)

初期経典から『法華経』へ——仏教普遍化への道——..... 古川 洋平 (研究員)

法華経の系譜——インドから日本へ..... 末木 文美士 (東京大学名誉教授)

写本研究から見える経典崇拜..... ダシユ・ショバ・ラニ (大谷大学教授)

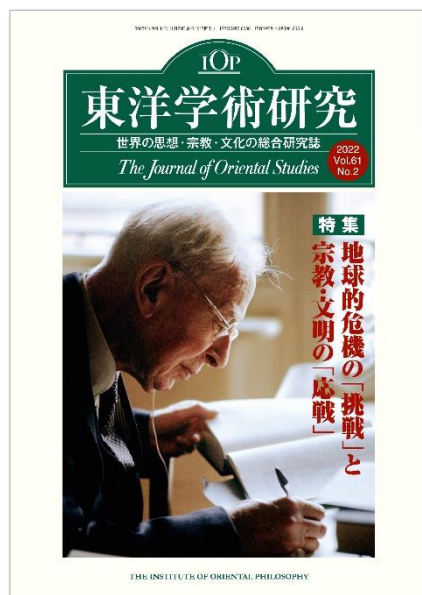
聖典としての仏教——『法華経』にみる三宝の歴史性——..... 下田 正弘 (東京大学大学院教授)

■コラム

シルクロード (絲綢之路) ①トルファン (吐魯番) 大村 次郷 (写真家)

■東洋哲学研究所創立 60 周年に寄せて

東洋学術研究 第61巻 第2号（通巻189号） 定価：1,400円（税込）



■特集 1 「地球的危機の『挑戦』と宗教・文明の『応戦』」（第36回学術大会シンポジウムより）

創立者・池田大作 SGI 会長と文明史家アーノルド・J・トインビー博士との対談開始から半世紀となった2022年、新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ危機などが生じた。対談を契機として、生を脅かす未曾有の「挑戦」に対し、人類が宗教を軸にいかにして立ち上がり「応戦」していくか——文明史的な観点から捉え直すことを目的として発表された4本の論考を掲載する。

■特集 2 人間性の危機を乗り越えて（2）

前号に続く企画では、アメリカ、ウクライナ、ドイツ、日本の研究者が、危機に直面した際、どのようにして人間性を回復し、それを乗り越えていけるのかについて綴った論文を収録する。

主な内容

■巻頭言

創刊60年を迎えて…………… 桐ヶ谷 章（所長）

■【特集1】地球的危機の「挑戦」と宗教・文明の「応戦」（第36回学術大会より）

『二十一世紀への対話』の歴史的文脈…………… 春日 潤一（委嘱研究員）

現代における危機の本質について——トインビー・池田対談からの発信——…………… 石神 豊（特任研究員）

共生の思想としての依正不二を巡って——『二十一世紀への対話』に関する比較文明的考察——…………… 保坂 俊司（中央大学教授、比較文明学会会長）

「第二の枢軸時代」に向けて——人類の精神革命と自己変革——…………… 市川 裕（東京大学名誉教授）

■【特集2】人間性の危機を乗り越えて（2）

疫病、物質、意味、責任…………… イアン・O・リード（アメリカ創価大学教授）

実存的問題としての死 その哲学的・宗教的側面…………… アンドリー・モロゾフ（キエウ国立貿易経済大学教授）

尊厳の記号学——尊厳心への人間学的アプローチ——…………… 山岡 政紀（委嘱研究員）

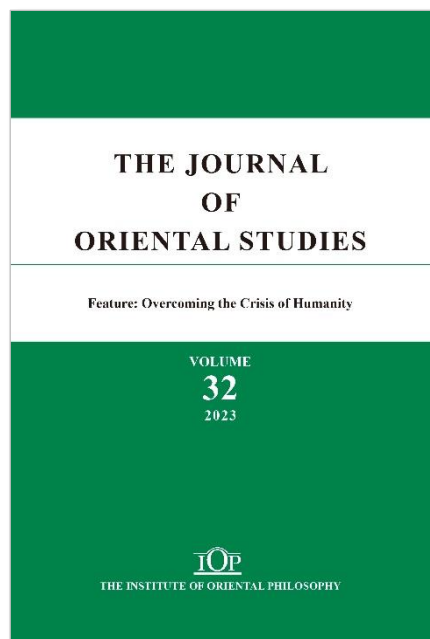
グローバルな智慧の創出——呪術的思考の打開策として…………… マリア・グアハルド（創価大学教授）

紛争地域の難民に対する教育とドイツ社会への統合…………… バーバラ・ドリンク（海外研究員）

■コラム

シルクロード（絲綢之路）②「アレクサンドロス大王東征」…………… 大村 次郷（写真家）

The Journal of Oriental Studies vol. 32 定価：2,200 円（税込）



Main Articles

■Feature: Overcoming the Crisis of Humanity

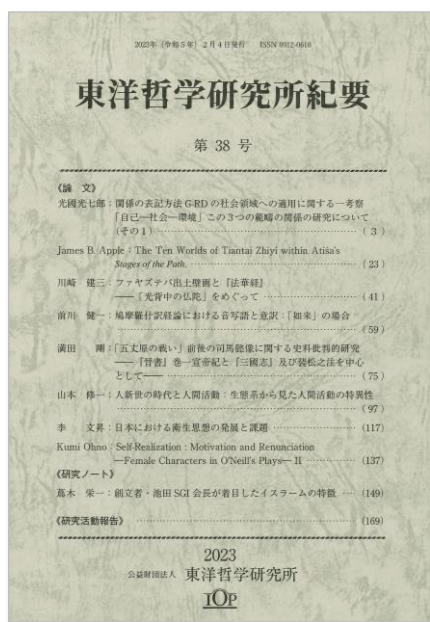
- Navigating Hard Times: Civilian Strategic Action Amidst Political Violence..... Shane J. Barter / Tetsushi Ogata
Epidemics, Matter, Significance, and Responsibility..... Ian Read
Global Wisdom: The Antidote to Magical Thinking..... Maria Guajardo
Education for Refugees from Conflict Zones and their Integration into German Society..... Barbara Drinck

■Religion and Civilization in 'Response' to the 'Challenge' of a Global Crisis

From the Symposium in Conjunction with the 36th Annual Academic Conference of the IOP

- The Historical Context of *Choose Life*..... Junichi Kasuga
On the Nature of Crisis in Our Time: Transmission from the Toynbee-Ikeda Dialogue..... Yutaka Ishigami
Esho Funi as a Philosophy of Coexistence: An Analysis of 'Dialogue for the 21st Century' from the Perspective of Comparative Civilizational Studies..... Shunji Hosaka
Toward the 'Second Axial Age'—The Spiritual Revolution of Humanity and Self-transformation..... Hiroshi Ichikawa

東洋哲学研究所紀要 第 38 号 （非売品）



《論文》

- 関係の表記方法 G-RD の社会領域への適用に関する一考察「自己—社会—環境」この3つの範疇の関係の研究について（その1）..... 光國 光七郎（委嘱研究員）
■The Ten Worlds of Tiantai Zhiyi within Atiśa's *Stages of the Path*..... James B. Apple（海外研究員）
■ファヤズテバ出土壁画と『法華経』——「光背中の仏陀」をめぐる..... 川崎 建三（委嘱研究員）
■鳩摩羅什訳経論における音写語と意識：「如来」の場合..... 前川 健一（研究員）
■「五丈原の戦い」前後の司馬懿像に関する史料批判的研究——『晉書』卷一宣帝紀と『三國志』及び裴松之注を中心として..... 満田 剛（委嘱研究員）
■人新世の時代と人間活動：生態系から見た人間活動の特異性..... 山本 修一（主任研究員）
■日本における衛生思想の発展と課題..... 李 文昇（委嘱研究員）
■Self-Realization: Motivation and Renunciation —Female Characters in O'Neill's Plays—— II..... Kumi Ohno（委嘱研究員）

《研究ノート》

- 創立者・池田 SGI 会長が着目したイスラームの特徴..... 蔦木 栄一（委嘱研究員）

《研究活動報告》



公益財団法人東洋哲学研究所

〒192-0003 東京都八王子市丹木町 1-236

Tel: 042 (691) 6591 Fax: 042 (691) 6588

メールアドレス: iop_info@iop.or.jp

日本語サイト: <http://www.totetu.org/>

英語サイト: <http://www.iop.or.jp/>



公益財団法人東洋哲学研究所

THE INSTITUTE OF ORIENTAL PHILOSOPHY